

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624番地1
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、「その人らしい豊かな生活」と「居心地のよい住みやすい環境」を2本柱に掲げ、活動しています。  
 その人らしい豊かな生活をするには、自己主張・自己実現ができる環境が最も重要であり、居心地のよい住みやすい環境を整えるには、利用者同士・職員との相互関係が良好でなければなりません。  
 その為に私たちは、利用者と職員が会話できるきっかけづくり、次なる取り組みに対しての新たな目標や課題、そして同じ楽しみを共有するからこそ生まれる絆を結ぶきっかけとなるように、アクティビティ委員会を発足し、少しでも充実した時間が過ごせるように日々取り組んでいます。  
 現在、身体的介護を要する方が増加傾向にあり、思うような活動までの展開はできていない現状ではありますが、「今できること」や「今だからできること」を大切に、利用者・職員と共に楽しい時間を築いていきたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町3丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『共に！』という理念の基本を大切に、利用者や家族、職員、地域が常に一緒になって、日々の生活を送っている。母体は地域の福祉を支える総合福祉施設として、どのようなレベルの高齢者も連携して支えていくことができる。職員は専門職としての資質を有し、利用者の尊厳を守りながら寄り添い支援をしている。利用者の要望に応じて、日頃から回転寿司やうどんを食べに出かけたり、喫茶店などお茶を飲みに出かけたりするなど、利用者が楽しめるような支援をしている。また、商店街の夜市に出店するなど積極的に地域と交流している。健康管理に関しては、24時間体制で協力医と連携しており、利用者は安心して生活を送ることができる。ブログに事業所の様子を公開するなど、開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

事業所名	グループホーム 梅本の里
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	稲荷 衆一
評価完了日	平成 25 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念を基に、グループホームの理念「利用者と共に笑い、家族と共に歩み、地域と共に支え合う」がある。会議や申し送り等で情報を共有し、理念に基づく活動ができるよう検討し、個々に実践に向けて努力している。また、グループホーム各階に理念を掲示し、環境作りに努めると共に意識付けしている。</p> <p>(外部評価) 法人理念を基本として、「利用者と共に笑い・家族と共に歩み・地域と共に支え合う」という事業所独自の理念を職員全員で話し合い8年前に作成している。今年度は、さらに「その人らしい豊かな生活・居心地のよい住みやすい環境」という年間目標を掲げ、職員は日々の生活の中で利用者と共に過ごす時間を作るように心がけ、個別支援できるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事や施設行事等の交流を通じて、地域の一員としての繋がりを大切にしている。また、定期的に地域の子供達と交流を行い、相互に有効な関わりができています。しかし、立地条件から日常的な交流はできていない為、更なる地域との繋がりを保てるような機会を設定することが、今後の課題である。</p> <p>(外部評価) 近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校とは定期的に交流をしている。中学生は事業所を訪問し、利用者と一緒におやつを作ったり喫茶コーナーを開くなど楽しい時間を過ごしている。また、地区の運動会に参加したり、地域の商店街の夜市に出店するなど、地域の様々な行事に参加している。土曜日は顔馴染みの知人と再会する機会にもなっており、利用者は楽しみにしている。事業所では年1回、ボランティア感謝祭を開催し利用者と職員が一緒に出し物を演じたり、オードブルを食べながら交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域行事や施設行事、地域の子供達との交流を通じて、認知症高齢者の理解・支援方法を理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者の状況・写真を基に事業所の活動内容・研修等の報告をしている。 また、様々な参加者からのご意見・ご要望があったものを、全職員へ伝えると共に、実際のサービス向上に結び付くよう努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、法人評議員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議の前に、家族会や新年会、敬老会、お花見などの食事会を開催する工夫をしており、和やかな雰囲気づくりをしている。会議では、事業所や研修の報告等を行い、意見交換をしている。参加者から出された意見はサービス向上につなげている。</p>	会議には、町内会長や防災士、いきいきサロンの代表など地域住民の参加を呼びかけ、多角的な意見交換ができることを望みたい。また、地域住民の理解と支援を得て、サービスの向上に具体的に活かしていくことのできる会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議において、事業所の実情やサービスの取組みを報告している。また、市町村からの連絡事項を確認している。 また、運営上の相談・指導・助言は、電話であるが指示をいただいたり、市の職員実習の受け入れもあり、事業所のご理解・ご協力いただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、意見交換をしている。また、日頃から介護保険の更新申請や支払い面など具体的な相談ができる関係を築いている。地域包括支援センターの主催するケアネット会議に参加したり、グループホーム交流会に参加し、現場の実情を伝え、意見交換の場としても活用している。また、市社協の職員研修を受け入れたりもしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 代表者及び全ての職員は、外部研修等で身体拘束の理解を深め、身体拘束ゼロを基本に、日々のケア・その人らしい豊かな生活を支援している。</p> <p>(外部評価) 外部研修に参加し、職員全員に報告し共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出願望の強い利用者には、職員が気のすむまで寄り添い一緒に散歩をして対応している。転倒の危険のある利用者には、夜間、ベッドにセンサーマットを敷いて安全を確保している。また、言葉による拘束にも気をつけ、職員間で常に注意し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は、事業所での虐待を見過ごさないように、日々利用者の心身状態の観察に努めている。 虐待における外部研修は少なく、外部研修への参加はできていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、学ぶ機会を持つよう努力しているが、全職員には浸透・徹底できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際は、利用者・ご家族にご理解・納得して頂けるよう、十分な説明を行っている。 改定等の際は、文章での連絡も行い、再度ご記名・捺印をいただくようにしているが、現時点で特に問題ない。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や行事への参加の際に、意見交換の時間をとり、ご意見・ご要望が運営に反映できるように努力している。 玄関には意見箱の設置しているが、活用されていない。 その為、面会の際利用者の状況を伝え、気軽に気楽に話が出来るとような関係を、少しずつであるが築いている。 (外部評価) 家族会と一緒に開催する運営推進会議や様々な行事の訪問時、介護計画の見直しなど、家族に利用者の様子を伝え、話しやすい雰囲気づくりに努めて意見や要望を聞くようにしている。また、事業所の新聞やブログなどで利用者の様子が伝わるように努めている。職員は家族から気軽に話ができるよう信頼関係の構築に努めている。出された意見は反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 代表者は定期的に個人面談を行い、ご意見や提案を聞く機会をもっている。 また管理者は、リーダーと方向性の確認・職員の意見や提案等の情報を共有し、職員が発言しやすい環境作りに努めると共に、職員と積極的にコミュニケーションを図り、些細な意見や提案が反映できるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 3か月に1回、統括施設長が職員全員の個別面談を行い意見を引き出している。日頃から職員がユニットリーダーに率直な意見を伝えることができる雰囲気づくりをしている。職員は入浴・排泄委員会、アクティビティ委員会、食事委員会、事故防止委員会のいずれかに所属し、毎月、それぞれの委員会で意見を出し合っって計画を立案し活動している。また、職員一人ひとりの経験や役職に応じた研修体系を整えており、年間を通して人間力を培う内容の研修や介護技術の向上のための研修を実施し、サービスの向上に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者が、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況の把握ができるよう、定期的な個人面談等で必ず報告している。 やりがいや向上心を持って働けるような環境を整え、常にスキルアップを目指し、職員のモチベーションが保てるように努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 代表者は、職員一人ひとりの育成を目指し、役職・リーダー・中堅・その他の職員に対し、計画的な研修を実施している。 その研修を通じて、知識や技術、人としての在り方等を学べる体制ができている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 協会主催の相互研修や中予地区研修、包括主催のケアネット等に積極的に参加し、同業者との交流・情報交換等行っている。 活動を通じて、サービスの質を向上させていけるよう努力している。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) アセスメントの情報を基に、本人やご家族と話し合い、要望に応えるサービスの提供ができるよう努めている。 様々な活動を通じて、本人が安心して生活できる環境作りや、他利用者との相互関係が深められるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 些細な事でも連絡を取り、生活状況を伝えている。また、面会時にはこれまでの生活スタイルを再確認し、事業所においても、その人らしい生活が継続支援できるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントの情報を基に、本人やご家族は何を必要としているか、どうすれば要望に応えるサービスの提供ができるかを、職員同士で話し合うように努めている。話し合った支援方法を本人やご家族に確認し、実践するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者のできる事、できない事を見極めながら、その人に合った個別サービスを行っている。また、一部の利用者ではあるが役割があり、誰かの役に立てている、感謝されていると感じる環境・雰囲気作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事や家族会の案内はもちろん、毎月グループホーム通信を発行し、利用者の状態・状況を伝えるようにしている。また、グループホーム通信を発行することで、面会や会話のきっかけとなり、いつまでもご家族との絆を大切にできるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や親戚との再会、また顔馴染みの場所や交流会にできるだけ出向き、信頼関係が途絶えないように支援している。  (外部評価) 家族の協力を得ながら、お墓参りや馴染みの美容室に出かけるよう支援している。職員は利用者に「今、どうしたいのか。今日どこへ行きたいのか」などの希望に応えることを大切にしており、馴染みの人や場所をつなぎ直すなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) アクティビティ活動を通じて、楽しい気持ちを共感・共有している。 また、利用者の誕生会にできるだけ参加していただき、ユニットが違う利用者との交流を大切にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人やご家族の相談にのったり、支援に努めていきたい。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話を基に、利用者の希望や意向に沿ったサービスの提供ができるように努めている。 重度の方に対しては、ご家族の意見を参考に、本人の負担のないサービスを検討している。  (外部評価) 入居時にアセスメントシートに沿って、思いや意向の把握など様々な情報を収集している。日々の生活の中で、利用者の意向を第一に考えて職員は支援をしている。意思表示が困難な利用者には、表情やしぐさから思いをくみ取り、職員間で話し合い利用者本位のサービスが提供できるように検討している。	職員一人ひとりが、生活の様々な場面で感じ取った気づきや利用者の感情の動きを記録に残し、職員全員で利用者の全体像を共有し、サービスの向上に活かす取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時の本人やご家族からのバックグラウンドを基に、日常の会話、ご家族との会話で、これまでの生活歴や顔馴染みの暮らしの把握に努め、サービスの提供に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態変化の早期発見・早期治療を心掛け、普段からの状態観察・介護記録の確認・コミュニケーション等により努めている。 有する力等の把握は、ケアの際に感覚で把握している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の生活状況・心身状態・日常の記録を基に、職員同士での話し合いが中心となっている。 本人やご家族には、ケアプランを基に説明し、ご意見やご要望、アイデアを反映できるように努めている。  (外部評価) 利用者の日々の生活状況をパソコンに入力し把握して管理している。毎日、利用者一人ひとりの多彩な項目を入力しているので、細かくモニタリングをすることができる。担当者がモニタリングしたものを中心に、職員全員で毎月話し合い検討している。また、必要に応じて看護師や医師を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日常の記録や申し送りにおいて、情報を共有しながら、問題点等を検討し、サービスの実践や介護計画に活かすように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個別サービスの時間を設け、一人ひとりの要望に沿ったサービスが提供できるように努めている。 また、ご家族へ行事の案内を郵送し、家族との絆を深められる場となるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事や地域の子供たちとのふれあい、併設している事業所に出向かい、楽しみのある時間が提供できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医による往診が、定期的にある。 状態悪化時の治療については、本人やご家族の意向を大切 に、主治医を交えた話し合いができるように努めている。	
			(外部評価) 入居時に、2か所の協力医のどちらかをかかりつけ医とす るよう利用者や家族に説明して同意を得ている。月2回、 協力医の往診があり、健康管理をしている。緊急時には2 4時間体制での連携が取れており、利用者は安心して生活 を送ることができる。希望する専門医をかかりつけ医とし ている利用者は、家族の協力を得て受診することができ る。医師と職員は利用者の連絡ノートを活用して状況を把 握している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 24時間体制で看護師と連携を図っている。 職員会議には看護師も出席し、情報共有に努めている。 また、記録をシステム化することで、いつでも日常の記録 が確認でき、状態の把握ができるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、サマリーで情報交換している。 また、早期退院の希望があっても、入院中の状態が安定し てから、主治医の判断により退院が決められている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や状態悪化時に備えての話はしているが、事業所 での看取りを希望するご家族がほとんどである。 事業所が提供できるサービスの限界について、本人・ご家 族と十分に話し合い、双方に溝ができないように対応す ることが今後の課題である。	
			(外部評価) 重度化や看取りは、入居時から利用者や家族と話し合いを 繰り返し、事業所では家族の要望を受け止め、現時点で事 業所として対応できることを検討したうえで、利用者 にとって終末期を迎える最良の場所を話し合い決めるよう にしている。必要に応じて、特別養護老人ホームや病院の利 用を支援している。	職員全員が、終末期の理解を深めることができるよう 研修会や勉強会を重ねることが望まれる。事業所とし てできることできないことを明確にし、協力医と連携 して共有できる看取りの指針等を作成し、家族を交 えて繰り返し話し合いながら、チームで支援すること を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜間・急変時対応マニュアルを整備し、職員会議で定期的に時間を設けている。 また法人で、2年に1回救命救急の講習会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人全体で、年2回避難訓練・消火器・火災報知器の設備点検を行っている。 毎回、消防署の方に参加いただいているが、立地条件もあり、地域を交えての訓練は実施できていない。 職員は避難訓練終了後、消火訓練を行っている。	
			(外部評価) 高齢者複合施設合同で様々な災害を想定して、年2回避難訓練を実施するほか、救急救命の訓練も実施している。定期的に消火器具や設備の点検を行っている。また、災害時に職員等に一齐メールができる仕組みを作っている。管理者は、職員だけの避難誘導には限界があることを認識しており、近隣住民や他の事業所の協力が得られるよう検討している。また、備蓄品を用意しており、増設予定の建物には避難場所を作る予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を傷つけない声かけをするように心掛けている。 また、プライバシーに配慮したケアはもちろんのこと、個人情報の取り扱いに関しては、その都度ご家族の承諾を得るように努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの誇りを尊重し、職員はトイレや浴室、居室などのプライバシーゾーンでの対応には十分配慮している。トイレは各居室にあり、アコーデオンカーテンで仕切られ、プライバシーが保てるようにしている。職員自身や親が利用者だったらどうしてほしいかを常に考え、支援するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 毎月の予定表に、個別サービスの日程を入れ、利用者のご要望に沿える体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿った支援を心掛け、利用者のペースに合わせた支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院へ外出したり、衣料店への外出等の対応もしている。 重度の方に対しては、日頃から整髪・整容・身だしなみを整える等の支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好に合わせたメニューを取り入れ、食べる楽しみを作っている。 また一部の方ではあるが、簡単な下ごしらえや食器の片付け等を、利用者の心身状態に応じて対応している。 食事は、利用者と一緒に摂り、好き嫌いの把握にも努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの健康状態を把握し好みを取り入れて職員が当番制で献立を立て、管理栄養士が点検し満足できる食事を提供している。専任のパート職員が調理をしており、利用者は配膳の準備などできることを手伝っている。 職員は利用者と同じ食卓を囲み、利用者の状態に合わせた食事をゆったりと食べられるよう支援している。また、肥満になりがちな利用者に配慮し、こんにゃくご飯を取り入れ成果を挙げる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事・水分摂取量を記録すると共に、体調・状態・体重の増減・好きな物・嫌いなもの等の把握に努めている。 その日の献立によって、その方に合った食器や食事形態を工夫し、支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシや専用のコップ等は個々に準備していただき、対応している。 全介助の方もいれば、声かけのみの方もおり、利用者によって、対応は異なっている。 自分で磨ける方対象ではあるが、舌用のブラシでも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全利用者トイレでの排泄を目指している。 現在も全介助の方を含めて、ポータブルトイレ等の使用しながらの実践ができている。 排泄委員会を中心に、自立に向けた支援、皮膚の清潔保持、水分摂取等、排泄チェック表を用いながら個々のリズムがつかめるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄状況をパソコンに入力して管理し、パターンを把握している。入浴・排泄委員が中心となって検討し、トイレ誘導や水分摂取の調整を行っている。また、非常勤の看護師はパソコン上でチェック表を把握することができ、医師と話し合いながら利用者がスムーズに排便できるよう調整を行っている。現在、トイレで利用者全員が排泄ができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の目標を1日1,000～1,500ccとし、多種類の飲食物を準備し、利用者の嗜好に合わせて提供している。また、その中でも乳製品・野菜ジュース・食物繊維のある食事等にも心掛けている。 運動への働きかけは、アクティビティ委員会を中心に、体操・レク活動の充実を呼びかけ、実践できている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には、毎日入浴できる体制としている。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴ボードでの順番制としている。 1日を通して入浴可としても、ほとんどの方が午前中を希望し、入浴している。	
			(外部評価) 利用者は希望により、毎日入浴することができる。利用者の希望に沿って入浴予定を入浴ボードに書き込み、ほとんどの利用者が週2回以上午前中に入浴をしている。利用者の要望により、同性介助をするなど気持ち良く入浴できるよう支援している。また、2階浴室には家庭用のリフトを設置しており、利用者の身体状況に応じて使用しており、安心安全に浴槽に浸かることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、無理のない生活、必要最小限の休息ができるように支援している。 その日の気候に合わせて、寝具・室温調節、安楽な姿勢、ギャッジベッドの角度の調節等にも配慮するよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、利用者の薬手帳・個人ファイルで、薬の目的や効果、副作用の確認・把握できるように努めている。 個人ファイルは、各フロアにて保管し、毎日の誤薬・飲み忘れがないように工夫等もできている。 服薬後は、利用者の状態変化・症状の有無に気をつけながら観察し、必要であれば主治医への連絡をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一部の利用者ではあるが、洗濯・調理・片付け等の役割を設定し、継続できるよう演出している。 また、アクティビティ活動・個別サービス・行事等を利用し、楽しみ・気分転換等の時間が提供できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) アクティビティ活動・個別サービスや行事を通じて、戸外に出掛けられる仕組みを作り、支援している。 行事に関しては、ご家族にも呼びかけ協力していただいている。  (外部評価) アクティビティ委員の職員が、要望や日々の生活の中から気持ちをくみ取り、利用者と一緒にできることを提案して、外出支援もしている。利用者一人ひとり個別にサービスの日を設けて、やりたいこと、して欲しいことが実現できるよう支援している。利用者の急な要望にも応じており、スーパーに買い物に出かけたり、コスモス畑の見学にも行けるように対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の方に関しては、お小遣い程度を所持し、事業所が関与せず自己管理できるようにしている。 現在まで、金銭トラブルはなく経過している。 また、全利用者1万円程度のお小遣いを、事業所で管理し、個別サービス等の場面で自らの手によって支払いできるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 一部利用者であるが要望があれば連絡したり、事業所に荷物が届いた際に送り先の方へ連絡する程度である。 手紙は本人からできない方がほとんどの為、遠方のご家族へ職員がお便りを出したり、グループホーム通信を毎月発行し、利用者の状態・事業所の取り組みを確認していただけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居心地のよい空間ができるように、常に不快や混乱のないように配慮している。 その中でも、職員の声量や物を取り扱う音、足音、椅子を移動する音等に気を付けている。 季節感としては、利用者と一緒に作った作品を掲示し、徐々に完成させていく仕組みを作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>開設して13年目を迎えるが、広々として清潔な印象を受ける事業所である。居間はゆったりとした広さがあり、テーブルの前で利用者が片付けを手伝ったり、ソファに座ってテレビを楽しんだりするなど、お気に入りの場所できつろぐことができる。台所はオープンキッチンになっており、調理の音やにおいが漂い利用者の五感を刺激している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>一人で過ごす時間を作りたい方は、居室で過ごしていただくことが中心であるが、その他にも廊下に椅子を設置している。 利用者同士の交流の場としては、テレビ前にソファを設置したり、交流できる行事を取り入れ、関係性が保てるよう工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのあるものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入所前に使っていた思い入れのある家具を、できる限り継続して使用できるよう配慮している。 箆箆や座椅子、仏壇等があり、少しでも環境を変えない空間づくりの工夫を、ご家族の協力の下努めることができる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室はクローゼットがあり、すっきりと片付けることができる。思い出深い家具や大好きな家族の写真、趣味の品などを持ち込むことができ、落ち着いて過ごすことのできる自分だけの空間となっている。各部屋に車いすで使用できる広さのトイレが備え付けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの心身状態に応じて、工夫した環境を設定し、不安や混乱を取り除くことができている。 ADLの低下は徐々にみられているが、一人ひとりが「できること」・「わかること」を職員が把握し、相互の関係を穏便にできる共用空間の工夫した環境設定が、今後も課題となっている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624番地1
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町3丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、「その人らしい豊かな生活」と「居心地のよい住みやすい環境」を2本柱に掲げ、活動しています。  
 その人らしい豊かな生活をするには、自己主張・自己実現ができる環境が最も重要であり、居心地のよい住みやすい環境を整えるには、利用者同士・職員との相互関係が良好でなければなりません。  
 その為に私たちは、利用者と職員が会話できるきっかけづくり、次なる取り組みに対しての新たな目標や課題、そして同じ楽しみを共有するからこそ生まれる絆を結ぶきっかけとなるように、アクティビティ委員会を発足し、少しでも充実した時間が過ごせるように日々取り組んでいます。  
 現在、身体的介護を要する方が増加傾向にあり、思うような活動までの展開はできていない現状ではありますが、「今できること」や「今だからできること」を大切に、利用者・職員と共に楽しい時間を築いていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『共に！』という理念の基本を大切に、利用者や家族、職員、地域が常に一緒になって、日々の生活を送っている。母体は地域の福祉を支える総合福祉施設として、どのようなレベルの高齢者も連携して支えていくことができる。職員は専門職としての資質を有し、利用者の尊厳を守りながら寄り添い支援をしている。利用者の要望に応じて、日頃から回転寿司やうどんを食べに出かけたり、喫茶店などお茶を飲みに出かけたりするなど、利用者が楽しめるような支援をしている。また、商店街の夜市に出店するなど積極的に地域と交流している。健康管理に関しては、24時間体制で協力医と連携しており、利用者は安心して生活を送ることができる。ブログに事業所の様子を公開するなど、開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 梅本の里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 山中 敬子

評価完了日 平成 25 年 10 月 31 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設全体の理念を基に、グループホーム独自の理念があり、日々の活動のなか、会議などの機会に管理者と職員は、理念に基づく活動が実践できるよう常に話し合い、共有、意識づけをして実践に向けて努力している</p> <p>(外部評価) 法人理念を基本として、「利用者と共に笑い・家族と共に歩み・地域と共に支え合う」という事業所独自の理念を職員全員で話し合い8年前に作成している。今年度は、さらに「その人らしい豊かな生活・居心地のよい住みやすい環境」という年間目標を掲げ、職員は日々の生活の中で利用者と共に過ごす時間を作るように心がけ、個別支援できるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の幼稚園 保育園 小学校 中学校と定期的に交流を行い、相互に有効な関わりができています。また、地域の方々とは地域行事 施設の行事等の交流を通じて、地域の一員としてのつながりを大切にしている。しかし、立地条件から日常的な交流は持っていない。そのため、地域に出て地域の方々との交流を持つよう努力をしている</p> <p>(外部評価) 近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校とは定期的に交流をしている。中学生は事業所を訪問し、利用者と一緒におやつを作ったり喫茶コーナーを開くなど楽しい時間を過ごしている。また、地区の運動会に参加したり、地域の商店街の夜市に出店するなど、地域の様々な行事に参加している。土曜日は顔馴染みの知人と再会する機会にもなっており、利用者は楽しみにしている。事業所では年1回、ボランティア感謝祭を開催し利用者と職員が一緒に出し物を演じたり、オードブルを食べながら交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域行事や施設行事、地域の子供達との交流を通じて認知症高齢者の理解や支援方法を理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者やサービスの状況・事業所の取組み内容などの報告の後、出席者全員に意見・要望をいただき、職員全員に伝え、サービス向上に向けて努力している</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、法人評議員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議の前に、家族会や新年会、敬老会、お花見などの食事会を開催する工夫をしており、和やかな雰囲気づくりをしている。会議では、事業所や研修の報告等を行い、意見交換をしている。参加者から出された意見はサービス向上につなげている。</p>	<p>会議には、町内会長や防災士、いきいきサロンの代表など地域住民の参加を呼びかけ、多角的な意見交換ができることを望みたい。また、地域住民の理解と支援を得て、サービスの向上に具体的に活かしていくことのできる会議となることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事業所の実情やケアサービスの取組みなどは、運営推進会議に出席いただいた時に伝えている。相談 指導 助言は、電話であるが指示をいただいている。市職員の実習の受け入れもあり、体験を通してホームへの理解・協力を深めてもらえるよう努めている</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、意見交換をしている。また、日頃から介護保険の更新申請や支払い面など具体的な相談ができる関係を築いている。地域包括支援センターの主催するケアネット会議に参加したり、グループホーム交流会に参加し、現場の実情を伝え、意見交換の場としても活用している。また、市社協の職員研修を受け入れたりもしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 代表者及び職員は、研修などを通して身体拘束について理解しており、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケア・自由な暮らしを支援している</p> <p>(外部評価) 外部研修に参加し、職員全員に報告し共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出願望の強い利用者には、職員が気のすむまで寄り添い一緒に散歩をして対応している。転倒の危険のある利用者には、夜間、ベッドにセンサーマットを敷いて安全を確保している。また、言葉による拘束にも気をつけ、職員間で常に注意し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は、事業所内で虐待が見過ごされることのないように、日々利用者の心身状態の観察に注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や一部職員は、研修に参加をしているが、制度を必要とする利用対象者がいない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やご家族に入所時、時間をかけ説明を行っているが、十分理解するまでにはいたっていないと思うため、その折々に必要な事項を再度説明し、理解・納得を図っている。また、改定等の際は、文章での連絡も行い、再度ご記名・捺印をいただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置してご意見・ご要望を求めているが、活用されていない。また、運営推進会議・施設行事への参加の際、ご家族・出席者からご意見・ご要望をお聞きし、運営に反映できるよう努力している  (外部評価) 家族会と一緒に開催する運営推進会議や様々な行事の訪問時、介護計画の見直しなど、家族に利用者の様子を伝え、話しやすい雰囲気づくりに努めて意見や要望を聞くようにしている。また、事業所の新聞やブログなどで利用者の様子が伝わるように努めている。職員は家族から気軽に話ができるよう信頼関係の構築に努めている。出された意見は反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は職員と定期的な面談を行い、意見や提案を聞くようにしている。また、面談以外でも代表者や管理者は職員が意見を表明しやすい環境をつくり、反映できるよう努力している	
			(外部評価) 3か月に1回、統括施設長が職員全員の個別面談を行い意見を引き出している。日頃から職員がユニットリーダーに率直な意見を伝えることができる雰囲気づくりをしている。職員は入浴・排泄委員会、アクティビティ委員会、食事委員会、事故防止委員会のいずれかに所属し、毎月、それぞれの委員会で意見を出し合っって計画を立案し活動している。また、職員一人ひとりの経験や役職に応じた研修体系を整えており、年間を通して人間力を培う内容の研修や介護技術の向上のための研修を実施し、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の勤務状況、実績の把握はできている。スキルアップの機会も多く、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、職員育成の重要性を認識し、すべての職員の立場、経験、能力に応じて施設内外の研修の機会を計画的に確保し、職員が働きながら技術や知識を身につけることができる体制ができている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括主催のケアネット等に積極的に参加し、同業者との交流・情報交換を行っている。また、協会主催の相互研修・勉強会・研修をとおしてサービスの質を向上させていけるよう努力している	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族などからの情報を基に、ご本人やご家族と話し合い、要望に応えるサービスが提供できるよう努めている。様々な活動を通じて、本人が安心して生活できる環境作りや、他利用者との相互関係が深められるよう努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当ケアマネージャーからの情報、利用していたサービス状況等を基に、事前面談・施設見学時などにご本人・ご家族の言葉を傾聴し、関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 多方面から情報を収集し、ご本人・ご家族の要望に応えられるサービスの提供について職員同士で話し合うように努めている。話し合った支援方法をご本人やご家族に確認し、実践するように努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の持てる力を発揮していただき、できるだけ寄り添い、共に支え合える関係づくりに努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への電話連絡時はもちろん、毎月、グループホーム通信を発行し、利用者の状態・状況を伝えるようにしている。また、面会時、いつまでもご家族との絆を大切にできるように努めている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所や交流会にできるだけ出向き、信頼関係が途切れないよう支援している  (外部評価) 家族の協力を得ながら、お墓参りや馴染みの美容室に出かけるよう支援している。職員は利用者に「今、どうしたいのか。今日どこへ行きたいのか」などの希望に応えることを大切にしており、馴染みの人や場所をつなぎ直すなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の様子観察 アクティビティ活動等を通じて利用者同士の関わり合いの把握・支援に努めている。1F 2F合同の誕生会行事に参加していただき、ユニット間の交流を図り、支え合えるような支援に努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用が終了しても、これまでの情報を提供したり、必要に応じてご本人やご家族の相談にのり、支援に努めていきたい	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話を大切にし、利用者の希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な場合は、ご家族の意見を参考に、職員が話し合い本人本位で検討している  (外部評価) 入居時にアセスメントシートに沿って、思いや意向の把握など様々な情報を収集している。日々の生活の中で、利用者の意向を第一に考えて職員は支援をしている。意思表示が困難な利用者には、表情やしぐさから思いをくみ取り、職員間で話し合い利用者本位のサービスが提供できるように検討している。	職員一人ひとりが、生活の様々な場面で感じ取った気づきや利用者の感情の動きを記録に残し、職員全員で利用者の全体像を共有し、サービスの向上に活かす取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時の情報を基に、日常の会話、面会時のご家族との会話のなかより、またご家族より これまでの生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努め、サービスの提供に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態変化の早期発見・早期治療を心掛け、ふだんからの様子観察・介護記録・コミュニケーションなどより総合的に把握し、支援に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の生活の様子や心身状態を観察し、精神面も大切にしながら、医療関係者とも相談して介護計画を作成している。ご家族には来訪時、思いや要望をお聞きして介護計画に反映できるように努めている  (外部評価) 利用者の日々の生活状況をパソコンに入力し把握して管理している。毎日、利用者一人ひとりの多彩な項目を入力しているので、細かくモニタリングをすることができる。担当者がモニタリングしたものを中心に、職員全員で毎月話し合い検討している。また、必要に応じて看護師や医師を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) パソコンに日々の様子や食事量・水分量・排泄・バイタルなどを入力し、勤務前に職員は確認し、また、申し送りなどで職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすように努めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個別サービスの時間を設け、一人ひとりの要望に沿ったサービスが提供できるように努めている。また、併設施設の機能を活用し、必要な時 必要なサービスを提供している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域商店街・幼稚園・保育園また事業所のデイサービス小梅に出かけ、楽しみのある時間が提供できるよう支援している	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科は、ご本人・ご家族が希望する主治医から定期的に往 診を受けている。状態悪化の治療については、ご本人・ご 家族の意向を大切に、主治医を交えた話し合いができるよ うに努めている  (外部評価) 入居時に、2か所の協力医のどちらかをかかりつけ医とす るよう利用者や家族に説明して同意を得ている。月2回、 協力医の往診があり、健康管理をしている。緊急時には2 4時間体制での連携が取れており、利用者は安心して生活 を送ることができる。希望する専門医をかかりつけ医とし ている利用者は、家族の協力を得て受診することができ る。医師と職員は利用者の連絡ノートを活用して状況を把 握している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員は利用者の状態変化の早期発見に努め、24時間体制で 看護師と連携を図っている。職員会議には看護師も出席 し、情報の共有に努めている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に病院関係者に、介護情報提供書を提供し、安心し て治療できるように支援している。また、早期退院に向け ての情報交換や相談を行い、よい関係づくりに努めている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人・ご家族の意思を踏まえ、事業所でできることを十 分に説明しながら方針を共有し、医師・看護師・職員と連 携をして、随時 意思を確認しながら支援に取り組んでい る  (外部評価) 重度化や看取りは、入居時から利用者や家族と話し合いを 繰り返し、事業所では家族の要望を受け止め、現時点で事 業所として対応できることを検討したうえで、利用者 にとって終末期を迎える最良の場所を話し合い決めるよう にしている。必要に応じて、特別養護老人ホームや病院の利 用を支援している。	職員全員が、終末期の理解を深めることができるよう 研修会や勉強会を重ねることが望まれる。事業所とし てできることできないことを明確にし、協力医と連携 して共有できる看取りの指針等を作成し、家族を交え て繰り返し話し合いながら、チームで支援することを 期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜間・急変時の緊急対応マニュアルを整備し、職員会議で定期的に時間を設けている。また、法人で2年に1回救命救急の講習会を行っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、法人全体で年2回避難訓練・消火器・火災探知機の設備点検を行なっている。職員は、避難訓練終了後、消化訓練も行っている。立地条件もあり、地域を交えての訓練は実施できていない	
			(外部評価) 高齢者複合施設合同で様々な災害を想定して、年2回避難訓練を実施するほか、救急救命の訓練も実施している。定期的に消火器具や設備の点検を行っている。また、災害時に職員等に一齐メールができる仕組みを作っている。管理者は、職員だけの避難誘導には限界があることを認識しており、近隣住民や他の事業所の協力が得られるよう検討している。また、備蓄品を用意しており、増設予定の建物には避難場所を作る予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に十分配慮している。個人情報の取り扱いも家族に承諾を得ながら、秘密保持の徹底に努めている	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの誇りを尊重し、職員はトイレや浴室、居室などのプライバシーゾーンでの対応には十分配慮している。トイレは各居室にあり、アコーデオンカーテンで仕切られ、プライバシーが保てるようにしている。職員自身や親が利用者だったらどうしてほしいかを常に考え、支援するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で思いや希望を表せるように援助している。また、個々のわかる力に合わせた説明を行い、自己決定できるように支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿い、一人ひとりのペースを大切に支援をしている。どうしても希望に沿えない時は説明をして、できるだけ希望に沿えるよう努力している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定のできる方には、その人らしい身だしなみができるよう衣料店 理美容店等への外出を支援をしている。また、自己決定できにくい方は、その人の機能に合わせて、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立に利用者の好物、誕生日には希望メニューを取り入れている。調理の下ごしらえなども利用者とともにしない、利用者と同じテーブルで食事を摂り、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの健康状態を把握し好みを取り入れて職員が当番制で献立を立て、管理栄養士が点検し満足できる食事を提供している。専任のパート職員が調理をしており、利用者は配膳の準備などできることを手伝っている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、利用者の状態に合わせた食事をゆったりと食べれるよう支援している。また、肥満になりがちな利用者に配慮し、こんにゃくご飯を取り入れ成果を挙げる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は利用者の食事量・水分量の情報を共有し、体調・体重の増減・好みの食べ物・飲み物を把握し、その人に合った食器・食事形態・介助方法を工夫して支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の有する能力を生かしながら、その人に合った方法で口腔ケアを行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の力や排泄パターン、習慣を活かして様子観察、声掛け、誘導を行いトイレで排泄できるよう支援している。また、排泄委員会があり、排泄の自立支援に向け活動を行っている</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄状況をパソコンに入力して管理し、パターンを把握している。入浴・排泄委員が中心となって検討し、トイレ誘導や水分摂取の調整を行っている。また、非常勤の看護師はパソコン上でチェック表を把握することができ、医師と話し合いながら利用者がスムーズに排便できるよう調整を行っている。現在、トイレで利用者全員が排泄ができています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 乳製品、食物繊維の多い食べ物・野菜などの摂取を心がけている。多種類の飲み物を準備して、一日1000cc～1500cc摂取を目標にこまめに提供している。また、アクティビティ委員会を中心に適度な運動に取り組んでいる</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個々のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう支援している。意思表示のできない方は、体調などに合わせて入浴の支援をしている</p> <p>(外部評価) 利用者は希望により、毎日入浴することができる。利用者の希望に沿って入浴予定を入浴ボードに書き込み、ほとんどの利用者が週2回以上午前中に入浴をしている。利用者の要望により、同性介助をするなど気持ち良く入浴できるよう支援している。また、2階浴室には家庭用のリフトを設置しており、利用者の身体状況に応じて使用しており、安心安全に浴槽に浸かることができる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて必要な休息や午睡がとれるように支援している。気持ちよく眠れるように体操を行ったり、外出・散歩をしたり、趣味活動を行って日中の活動に配慮している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、各利用者の薬手帳・薬ファイルにて薬の目的などを理解し、いつでも簡単に確認できるようにしている。誤薬・飲み忘れをなくするための工夫も行っている。利用者の状態変化などにも気をつけ、医療関係者に情報提供をしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者のできる力を活かし、洗濯たたみ・料理の下ごしらえ等をしていただき、感謝の意を表し、やりがいを感じていただくよう支援している。アクティビティ活動も活発に行い、楽しみごと、気分転換に努めている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に沿って個別サービスでドライブや行事に出掛けられるように支援している。行事などには、ご家族にご協力いただいている	
			(外部評価) アクティビティ委員の職員が、要望や日々の生活の中から気持ちをくみ取り、利用者と一緒にできることを提案して、外出支援もしている。利用者一人ひとり個別にサービスの日を設けて、やりたいこと、して欲しいことが実現できるように支援している。利用者の急な要望にも応じており、スーパーに買い物に出かけたり、コスモス畑の見学にも行けるように対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解していて個々の希望や力に応じて使えるように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りのできる方がおられない	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 月ごとのグループホーム通信を掲示したり、利用者と一緒に作った季節に応じた作品（ちぎり絵 ぬり絵 習字）等を貼り、居心地よく過ごせるよう工夫している</p> <p>(外部評価) 開設して13年目を迎えるが、広々として清潔な印象を受ける事業所である。居間はゆったりとした広さがあり、テーブルの前で利用者が片付けを手伝ったり、ソファに座ってテレビを楽しんだりするなど、お気に入りの場所できつろぐことができる。台所はオープンキッチンになっており、調理の音やにおいが漂い利用者の五感を刺激している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 廊下に椅子を置いたり、テレビ前にソファを置いて、その時に応じて交流が持てるよう工夫している</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所前に使っていた好みの物や使い慣れたものを持ち込んでいただき、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫している</p> <p>(外部評価) 居室はクローゼットがあり、すっきりと片付けることができる。思い出深い家具や大好きな家族の写真、趣味の品などを持ち込むことができ、落ち着いて過ごすことのできる自分だけの空間となっている。各部屋に車いすで使用できる広さのトイレが備え付けられている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 1人ひとりのわかる力に合わせて、居室・トイレなどに目印・写真などを利用し、不安や混乱材料を取り除き、できる力・わかる力を生かすよう支援している</p>	